PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number:

04-206162

(43)Date of publication of application: 28.07.1992

(51)Int.Cl.

HO1M 8/24 HO1M 8/10

(21)Application number: 02-325449

(71)Applicant: MITSUBISHI HEAVY IND LTD

(22)Date of filing:

29,11,1990

(72)Inventor: FURUYA CHOICHI

ICHIKAWA KUNINOBU

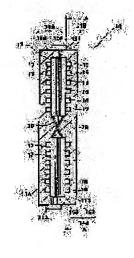
WADA KO

(54) CELL UNIT FOR SOLID HIGH POLYMER ELECTROLYTE FILM FUEL CELL

(57) Abstract:

PURPOSE: To obtain a thin type cell unit having high voltage by arranging junction bodies having a small area in the plane, and collecting current in series electrically.

CONSTITUTION: Plural sheets of junction bodies are arranged and sandwiched in the plane between two sheets of insulating plates 11A and 11B so as to form a cell unit 10. The respective junction bodies 12 are formed by connecting gas diffusion electrodes 14A and 14B on both sides of a solid high polymer electrolyte film 13. When H2 and O2 are supplied to the junction bodies 12 by a raw material gas supply means, since cell reactions are generated respectively in the respective junction bodies, electric current is taken out from current collecting parts 21A and 21B by connecting H2 poles and O2 poles alternately in series. Under this constitution, a thin type cell unit capable of obtaining high voltage can be formed.



®日本国特許庁(JP)

① 特許出願公開

⑩公開特許公報(A) 平4-206162

@Int. Cl. 5

識別記号

广内整理番号

❸公開 平成 4年(1992) 7月28日

H 01 M 8/24 8/10 Z

9062-4K 9062-4K

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全5頁)

60発明の名称

固体高分子電解質膜燃料電池のセルユニット

创特 願 平2-325449

22出 願 平2(1990)11月29日

明者 屋 @発 古 @発 明

長 山梨県甲府市大手2丁目4番3-31号

111 国 延 老 市

神奈川県相模原市田名3000番地 三菱重工業株式会社相模

原製作所內

72発 明 者 和 H 香

神奈川県相模原市田名3000番地 三菱重工業株式会社相模

原製作所内

の出 願 三菱重工業株式会社 人

東京都千代田区丸の内2丁目5番1号

個代 理 弁理士 光石 英俊

外1名

明

1.発明の名称

固体高分子電解質膜燃料電池のセルユニット 2. 特許請求の範囲

固体高分子電解質膜を水素極及び酸素極とな る2枚のガス拡散電極で挟んで接合してなる接 合体を複数枚面方向に配列した状態で両側から 絶縁性プレートにより挟持してなり、

上記継縁性プレートは、上記接合体の水素極 には水素原料ガスを供給すると共に酸素極には 酸素原料ガスを供給する原料ガス供給手段と、 各接合体の水素極と酸素極とを電気的に交互に 直列に接続して集電する集電手段とを具えてい ることを特徴とする固体高分子電解質膜燃料電 他のセルユニット。

3. 発明の詳細な説明

<産業上の利用分野>

本発明は固体高分子電解質膜燃料電池のセ ルユニットに関し、薄型で高電圧が得られる ように工夫したものである。

<従来の技術>

燃料電池は、資源の枯渇問題を有する化石 燃料を使う必要がない上、騒音をほとんど発 生せず、エネルギの回収効率も他のエネルギ 機関と較べて非常に高くできる等の優れた特 徴を持っているため、例えばビルディング単 位や工場単位の比較的小型の発電プラントと して利用されている。

近年、この燃料電池を車載用の内燃機関に 代えて作動するモータの電源として利用し、 このモータにより車両等を駆動することが考 えられている。この場合に重要なことは、反 応によって生成する物質をできるだけ再利用 することは当然のこととして、車載用である てとからも明らかなように、余り大きな出力 は必要でないものの、全ての付帯設備と共に 可能な限り小型であることが窒ましく、この ような点から固体高分子電解質胰燃料電池が `注目されている。

工工で、一例として固体高分子電解實際燃料電池本体の基本構造を第2図を参照しながら説明する。問図に示すように、電池本体 01は固体高分子電解實際 02の両側にガス拡散電極 03A, 03Bが接合されることにより構成されている。そしてこの接合体は、固体 高分子電解實際 02の両側にガス拡散電極 03A, 03Bを合せた後、ホットプレス等することにより製造される。また、ガス拡散電極 03A, 03Bはそれぞれ反応膜 04A, 04B及びガス拡散 膜 05A, 05Bが接合されたものであり、電解実際 02とは反応膜 04A, 04Bとの間の接触面で起こる。

また、上記ガス拡散電極 0 3 A の表面には、酸素供給溝 0 6 a を有するガスセパレータが、また他方のガス拡散電極 0 3 B の表面には水素供給溝 0 7 a を有するガスセパレータ 0 7 がそれぞれ接合されており、酸素極と水素極

ならないという問題がある。

そして、通常、一つの燃料電池本体 0 1、 つまりーセルユニットから得られる電圧は 1 V 以下なので、一般には多数のセルユニット を直列に積層することにより高電圧を得てい るので大型化が避けられないのが現状である。

本発明はこのような事情に鑑み、小型、特に薄型で高電圧が得られる固体高分子膜燃料電池のセルユニットを提供することを目的とする。

<課題を解決するための手段>

前記目的を達成する本発明に係る固体高分子膜燃料電池のセルユニットは、固体高分子電解質膜を水素極及び酸素極となる 2 枚のガス拡散電極で挟んで接合してなる接合体を複数枚面方向に配列した状態で両側から絶縁性プレートにより挟持してなり、上記絶縁性プレートは、上記接合体の水素極には酸素原料ガスを供給する原料ガス供給手段と、各接合体

を構成している。

そして、酸素供給湯06 a及び水素供給湯07 a は酸素及び水素をそれぞれ供給すると、酸素,水素は、各々のガス拡散膜05 A,05 Bを介して反応膜04 A,04 B 個へ供給され、各反応膜04 A,04 B と電解質膜02 との界面で次のような反応が起こる。

反応膜 0 4 A の界面:

O₂ + 4 H ⁺ + 4 e ⁻ → 2 H₂O 反応膜 0 4 Bの界面:

2 H, - 4 H + 4 e

ここで、4 H^{*}は電解質膜 0 2 を通って水素 極から酸素極へ流れるが、4 e^{*}は負荷 0 8 を 通って水素極から酸素極へ流れることになり、 電気エネルギが得られる。

<発明が解決しようとする課題>

上述した構成の燃料電池本体 0 1 では、電池反応は主に、電解質膜 0 2 と各反応膜 0 4 A A A 0 4 B との接触面で起こるので、電池性能を向上させるには電極自体を大きくしなければ

の水素極と酸素機とを電気的に交互に直列に 接続して集電する集電手段とを具えているこ とを特徴とする。

<作 用>

2 枚の絶縁性プレートに挟持された複数枚の接合体に、原料ガス供給手段により水素原料ガスを供給すると、各接合体においてそれぞれ電池反応が生じる。そして、発電された電気は集電手段により直列に集電され、高電圧が得られる。

<実 施 例>

以下、本発明に係る固体高分子電解實際燃料電池のセルユニットについて実施例に基づいて説明する。

第1図(a), (b)には、一実施例に係るセルユニットを概念的に示す。両図に示すように、本実施例のセルユニット10は2枚の絶縁性プレート11A,11Bの間に複数枚の接合体12を面方向に配列・挟持したものである。各接合体12は、固体高分子電解質課13の

両側にガス拡散電極14A,14Bを接合したものである。

てこで、上記固体高分子電解費膜 1 3 としては 0.17 m厚のパーフルオロステフォン酸ポリマー膜 (ナフィオン117: デュポン社製)を用いた。

一方、ガス拡散電極14A,148は、平均粒径50 Aの白金と平均粒径450 Aの分類水性カーボンブラックと疎水性カーボンブラックと疎水性カーボンブラックと疎水性カーボンブロスを腰15 A,15 Bと、平均粒径420 Aのポリテトラフルオロスチレンとが7:3の割合から構成されている。反応膜15 A,16 Bとから構成されている。反応膜15 A,16 B及以外の各原料粉末にソルベンドチフサのた数以外の各原料粉末にソルベン溶膜を混合でた数、圧縮成形することにより得ることがで

により P t 0.5 6 mg/miを担持させることに よりガス拡散電極 1 4 A , 1 4 B が製造され る。 本実施例では、かかるガス拡散電極 1 4 A ,

きる。そして、これらを重ねて圧延し、反応

膜15A,15B側に、塩化白金酸化還元法

本実施例では、かかるガス拡動電極 1 4 A A 1 4 B の間に固体高分子電解質膜 1 3 をはさみ、ホットプレスすることにより接合体 1 2 としている。

また、絶縁プレート11A,11Bの各ガス拡散電極14A,14Bに接続する部分には、各ガス拡散電極14Aの表面に沿って酸素供給薄17が、各ガス拡散電極14Bの表面に沿って水素供給薄18と水供給薄19とが交互に形成されている。すなわち、各ガス拡散電極14Bは水素極となる固体高分子電解膜燃料電池が構成されている。なお、水素極便へ水供給薄19を設けたのは、冷却及び固体高分子電解膜期13を設けたのは、冷却及び固体高分子電解膜期13への加湿のための水を強すためであ

3 .

そして、各接合体 1 2 で発電される電気は、セルユニット 1 0 毎に直列に集電されるようになっている。すなわち、各接合体 1 2 は、接続ケーブル 2 0 により水素極と酸素極とが交互になるように直列に接続され、両端が集電部 2 1 A, 2 1 B に接続されている。

なお、絶縁性プレート11A,11Bは絶縁性の樹脂で形成され、各接合体12の各ガス拡散電極14A,14Bが絶縁状態となるようになっている。そして、各ガス拡散電極14A,14Bには集電のため、図示しない銅製等の金網が埋め込まれており、上記接続ケーブル20は当該金網を接続するように設けられている。

以上の構成において、各酸素供給薄17へ 例えば空気を、また、各水素供給薄18へ例 えばメタノール改質装置で製造される改質ガスを供給すると、各接合体12枚に発電され、 発電された電気は集電部21A,21Bから 取り出される。

2枚の絶縁プレート11A,11Bの間に5 cm四方の接合体12を70枚並べてセルユニット10としたところ、1枚の接合体12 毎に0.71V得られるので、業電部21A,21B間では49Vの高電圧が得られる。なお、このセルユニット10の厚さは5 mmである。

また、かかるセルユニット10を20セット重ね合せると、約10 km (49 V × 20 8 A)の燃料電池となる。なお、この場合にも厚さは約100 m と非常に薄いものである。

上記実施例では、各接合体12の例えば水素極が同じ側になるように配列したが、これに限定されるものではなく、水素極と酸素極とが交互に隣接するように配設してもよい。 この場合には平面状の接続部とすることができ、集電効率が向上するという効果を奏する。

また、上記実施例では各接合体 1 2 の例えば水素極が同じ側になるように配列している

特開平4-206162 (4)

が、勿論とれに限定されるものではなく、例 えば水素様と酸素極とが臍接するように配設 してもよい。なお、この場合には接続ケーブ ル20として平面状のものを用いることがで き、巣電効率の向上を図ることができる。

<発明の効果>

以上説明したように、本発明に係る固体高分子電解實膜燃料電池のセルユニットは小面積の接合体を面方向に配列し、電気的に直列に集電するようにしているので、薄型で真電圧が得られるものである。

4. 図面の簡単な説明

第1図(a)は一実施例に係るセルユニットの断面図、第1図(b)はそのAーA線断面図、第2図は従来技術に係る固体高分子膜燃料電池を概念的に示す説明図である。

窗 亩 中、

- 10はセルユニット、
- 11A, 11Bは絶縁性プレート、
- 12 は接合体、

13は固体高分子電解質膜、

1 4 A , 1 4 B はガス拡散電極、

15A, 15B は反応膜、

16A, 16Bはガス拡散膜、

17は酸素供給薄、

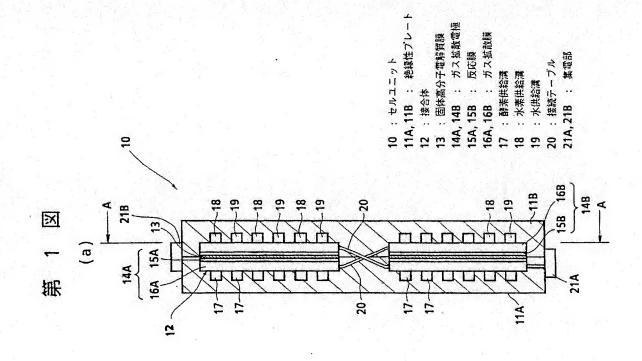
18は水素供給溝、

19は水供給溝、

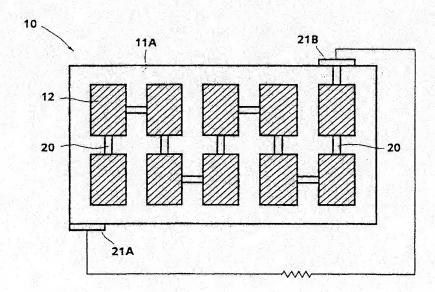
20は接続ケーブル、

2 1 A, 2 1 B は集電部である。

特 許 出 類 人 三菱重工業株式会社 代 理 人 弁理士 光 石 英 俊 (他1名)



第 1 図 (b)



11A,11B : 絶縁性プレート 12 :接合体

12 : 接合体 20 : 接続テーブル 21A, 21B : 集電部

第 2 図

